

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和2年6月2日 ～ 令和3年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 《委託研究Ⅵ：その他夜間中学における教育活動充実に関すること》</p> <p>ア. 高齢者や外国人向けのカリキュラム開発 ・「やさしい日本語」を活用した指導の充実</p> <p>ウ. 他市町村の夜間学級や域内の中学校、近隣の定時制高校との連携 ・昼の中学校や定時制高校との積極的な交流の取り組みを推進する。</p>
調査研究のねらい	<p>本市夜間学級では、ここ数年、日本国籍生徒の在籍数が減少しているが、一方で、来日して間もない、日本語指導を必要とする生徒や、全日制高等学校への進学をめざす生徒が増加している。生徒の国籍については、中国、東南アジア諸国を始め、シリア、スーダン等の西アジアやアフリカ諸国など、多国籍化が一層進んでいる（16カ国、約90%の生徒が外国籍）。</p> <p>生徒の進路保障を視野に入れ、近隣の定時制高等学校の行事に参加し、交流や情報交換を行う中で、生徒の学ぶ意欲を高めていきたい。</p> <p>昨年度、夜間学級の取組を市内教職員や市民に発信したことにより、夜間学級の役割等について理解が進んでいるが、十分とは言えない状況にある。</p> <p>そこで、</p> <p>① 国籍、年齢、学習経験など、多様な背景を持つ生徒に対応するための教育課程や指導方法を調査・研究する。</p> <p>② 生徒の持つ文化的背景（特に宗教、言語など）を知ることは、指導上必須なので、教員研修の充実を図り、資質向上に努める。また、生徒同士や生徒と教員間の相互理解を深めるために、三人行事（新入生歓迎集会・連合運動会・連合作品展）に積極的に参加し、他校との交流を推進する。交流で学んだことを踏まえ、学校生活のさらなる充実を図る。</p> <p>全日制高等学校に進学する生徒が増加しているが、進学後の生徒の状況については、高等学校側からの情報提供による把握に留まっている。夜間学級の生徒が、積極的に高等学校の行事等に参加するなどして情報共有を進めることにより、夜間学級で身に付けておくべき学力を明確化することをめざす。</p> <p>また、定時制高等学校とは、年間1～2回の連絡会を行い、</p>

	<p>情報共有を図っているが、さらなる定期的な連絡等を通じて、交流を充実させる。</p> <p>昼の中学校との交流については、「日時の設定」「内容の精選充実」「夜間学級側の参加生徒の抽出方法」等の課題があるが、昼の中学校生徒会と連携を密にし、2学期までに、講話、料理集会を通じた交流を推進する。</p> <p>③ 生徒同士や生徒と教員間の相互理解を深めるために、学習指導だけでなく、特色のある行事を実施する。特に、外国籍生徒が持つ文化的背景を相互に理解し合えるような行事について、調査・研究を行う。</p>
調査研究の成果	<p>本年度も多国籍化が進み、外国籍生徒が93%を占めるようになってとともに、非英語圏の若年層の生徒が増加したため、個人のニーズに応じてよりきめ細かく指導する必要性が高まった。そのため、学習を進める前に、個人の課題や目標を明確化し、本校で独自に設置しているコースごとに、可能な限り複数の教員が関わられるような体制作りを行い、生徒の学習ニーズに対応できるようにした。</p> <p>また、生徒指導部主催の情報交換会を毎月行い、生徒の学習進捗や理解度などもより細かく報告するようにし、連携と共有を重視した。</p> <p>具体的な調査研究の内容と成果は以下の通り。</p> <p>○学習指導の充実</p> <p>小・中学校の国語の学習指導要領を基本として、使用頻度の高い日本語を更に簡易に表現したものを用いた日常生活にすぐに役立てられる教材を増やすことで、生徒の興味関心をより高めることができた。また、漢字の指導方法に関する教職員対象研修を行うことにより、生徒が漢字に興味を持てるような指導方法や補助教材の充実に資することができた。</p> <p>○校内連携による指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学を希望する生徒に対しては、早めに登校させて学習に取り組んだ。長期休業中には補習を行い、教科学習の充実に努めた。また、大阪府教育庁から配置された日本語指導支援員が、学習の進捗状況を教職員と共有することにより、より連携して指導を行うことができた。さらに、日本語指導支援員

が教材を紹介するなどして、教職員全体の指導力向上を図ることができた。

- ・定期的に（月1回）研究委員会を開き、コース間の国語指導状況や進捗を確認し、共有するように努めた。また、具体的な参考資料の情報も共有することができた。

○公開授業やアンケートによる夜間学級の周知

- ・今年度は授業参観を2回行う予定であったが、コロナの影響で実施できなかった。そこで、10月に公開授業期間（10/6～10/8）を設定し、市域小中学校の教職員に周知。21名の参加があった。また、近畿夜間中学校連合会対象で、オープンスクールとして公開日（1日）を持った。参加者からは、「知る喜び」「できる喜び」「全ての生徒の学ぶことへの意欲」「未来への希望」などを感じられたとの感想が寄せられ、好評であった。公開授業については、夜間学級の周知の意義も踏まえ、今後も実施する予定としている。
- ・夜間学級に関するアンケートを、市域小中学校のPTA関係者及び民間団体（ライオンズクラブ、ロータリークラブ）へ依頼。夜間学級の認知が地域に十分広がっていない現状が把握できたため、今後も、アンケートの依頼先を増やすなどして認知を高めたい。また、集計結果を検証し、今後の取組みの充実に繋げたい。

○人権教育の推進

- ・7月15日に、「ジェンダーフリー」をテーマとして授業を行った。職員をA・Bの2チームに分け、今回はAチームで授業実践及び発表。

視覚的な教材提示を積極的に行いながら、生徒の理解を促すなどの工夫を実践した。しかし、授業後半のまとめの段階では、日常使用している「やさしい日本語」だけでは十分な理解に繋げることが困難であり、日本語を理解していない生徒が多数を占める中での一斉指導に課題が残った。

- ・12月2日に、「多文化共生—ちがいを・差別について考えよう」をテーマとし、Bチームが授業を実施した。

教職員が想定していたよりも多様な意見が出されるなど、充実した内容となった。しかし、多言語の生徒が在籍する中、多様な意見を受け止めつつ内容をより深める必要性や、視覚

的な教材提示のさらなる充実などの課題が残った。今後も、生徒が差別に気づき解消していけるよう、学習を継続する必要があると感じた。

○教職員研修の充実と指導力向上

- ・ 8月17日、御子神 慶子さん（財団法人海外産業人材育成協会関西研修センター日本語講師）を迎えて「漢字の指導」についての校内研修を実施した。特に漢字が定着しにくい生徒に対し、どのように指導すれば興味関心を持たせられるのか、また、特殊音「っ」などの読み書きの指導方法などについて丁寧に説明いただいた。漢字の中にはカタカナが含まれているものがあり、カタカナも同時に教えることができるといったことや、五十音等の掲示物についても、漢字圏以外の生徒にとっては横書きの方が分かりやすいことなど、これまでの教職員の視点を変えるような助言いただいた。
- ・ 8月20日、オチャンテ・村井・ロサ・メルセデスさん（桃山学院教育大学教育学部教育学科准教授）を講師に迎えて、「外国にルーツを持つ児童・生徒の支援、保護者の相談、国際理解教育活動」に関する研修を行った。生活言語と学習言語の習得年数に差があることや、国籍を問わず、全ての生徒にとってアクセスしやすい学校づくりと卒業までのサポート体制づくりが重要であることなどを理解できた。また、外国籍生徒を受け入れて指導を継続することは、これからの共生社会に向けた人材育成を行っていることと改めて認識することができた。

○行事の充実

- ・ 近畿夜間中学校連合会運動会がコロナの影響により中止となったため、規模を縮小し、校内でミニ運動会を開催した。
- ・ 宿泊校外学習（滋賀方面）を1泊2日で予定していたが、コロナの影響で参加人数が集まらず、中止となった。
- ・ コロナの影響により、例年行っていた料理集会を開催できなかったため、防災教育の一環として、災害時の調理等に関するエコ・ポリクッキングの指導に変更した。参加生徒からは、「簡単に炊飯ができ、しかも美味しかった」という感想が多く聞かれた。昼の生徒との交流はコロナの影響により中止

とした。

- ・近畿夜間中学校連合会作品展の中止に伴い、自校でのミニ作品展に変更し実施した。昼の生徒にも参加を呼びかけ、約30人の来場があり、アンケートを実施した上で、内容をまとめたものを各クラスに掲示した。

○冊子の作成と活用

すべての生徒の学習の総まとめとして、作文集第43号「希望」を作成し発刊した。生徒自身の生い立ちや感じていることなどを日本語で表現することにより、これまでの学習の成果の確認と振り返りに資することができた。また、自分の書いた作文を学級で発表することにより、日本語でのスピーチ力向上のみならず、お互いを尊重し合う雰囲気醸成することができた。